

てくてく 古道を歩こう

いちかわみち
市川道

御坂編



笛吹市教育委員会文化財課主催

平成 29 年 9 月 23 日

本日のコース

集合・スタート：笛吹市役所御坂支所駐車場

↓
1：五本辻

↓
2：常楽寺

↓
3：美和神社

↓
4：国立神社

↓
5：南照院（姥塚古墳）

↓
6：宝篋印塔群

↓
7：成田熊野神社

↓
8：九品寺

↓
9：世音寺

↓
10：日当神社

↓
★ゴール：金川の森
駐車場

（バスで御坂支所まで送ります。）

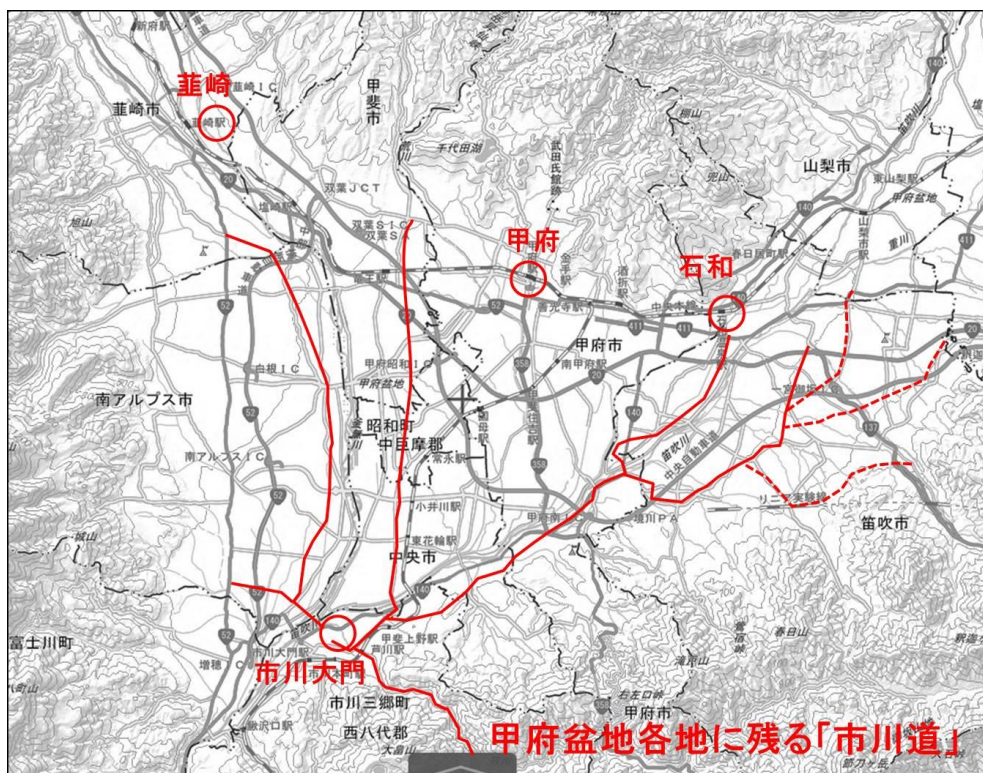
約 4.4 km の道のりです。車に気をつけてください。



※このサルの石造物はどこにあるでしょうか？
→ 答えは裏表紙

☆市川道について

甲府盆地を流れる二つの河川、笛吹川と釜無川が合流する市川大門は、陸路と富士川を使った水運が交差する交通の要衝でした。甲府盆地の各地にかつて「市川道」が通っていたという文献や道標、伝承が残っています。『山梨県歴史の道調査報告書第15集 市川道』では、①石和からの道、②八代からの道、③芦川沿いの道、④西郡からの道、⑤竜王方面からの道の5つのルートがあったとしています。笛吹市教育委員会では平成28年度に石和地域に残る市川道をたどる散策会を実施しました。平成29年度には「八代ルート」と呼ばれる市川道とその周辺



の文化財を訪ねていきます。

「歴史の道調査報告書」では、八代ルートは御坂町金川原地内で鎌倉街道から分岐し、八代町・境川町を通

過して中道町の白井河原で石和からの市川道に合流するものとしてい

ます。今回は美和神社の南西側にある「五本辻」を起

点として、石和町上平井までのルートをたどり

ます。五本辻にはかつて「左くろこま道 右市川道」と記され

た道標がありました。このことから美和神社の参道に直交する

参道が「市川道」として認識されていたことがわかります。

この道は伝承や地名から、かつて「おみゆきさん」の時に神輿が通った「御幸道」とも重なります。

周辺には美和神社を始め、姥塚古墳・国衙推定地・熊野神社など古代にさかのぼる文化財が多数存在し、この道の古さが窺われます。



五本辻の馬頭観音



道標（『御坂の石造物』より）

☆ 常楽寺（小山城主穴山伊予守信永及び一

族郎党に関する歴史資料（五輪塔及び位牌）

常楽寺の創建は不明ですが、寛文6年（1666）に修繕・中興されたとの記録があります。境内には穴山伊予守信永とその家来のお墓である五輪塔群があります。穴山伊予守は八代町高家にある小山城の城主だった人です。大永3年（1523）、峡南地方の南部氏が鳥坂峠を越えて攻めてきたため、伊予守は花鳥山でこれを迎え撃ちました。（花見中に襲われたとも言われています。）しかし敵は強く、小山城に退却しますがここも落城し、伊予守と家来たちは常楽寺に逃れてここで自決しました。穴山一族の悲しい最期は童女の手毬歌にも歌われました。





常楽寺 山門



金剛力士像（阿形）



金剛力士像（阿形）

☆美和神社

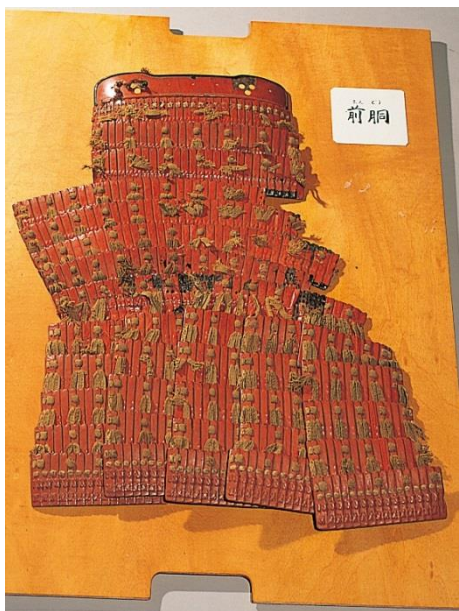
美和神社の祭神は大物主命で、景行天皇の時代に日本武尊の命によって甲斐国造塩海足尼が大和国大三輪明神から勧請しました。

仁和2年（886）甲斐国に大水害があったので、一宮町一ノ宮の浅間神社、甲府市国玉町の玉諸神社とともに三社で合同の水防のお祭りをすることになりました。「おみゆきさん」の始まりです。美和神社はこの時、甲斐国の二之宮に定められました。

美和神社は武田家の崇敬も篤く、武田信玄と義信によって奉納された板絵著色三十六歌仙図をはじめ、多くの文化財が伝わっています。



美和神社 拝殿と神楽殿



しゅぎねあかいとすかけおどしどうまる
朱札紅糸素懸威胴丸

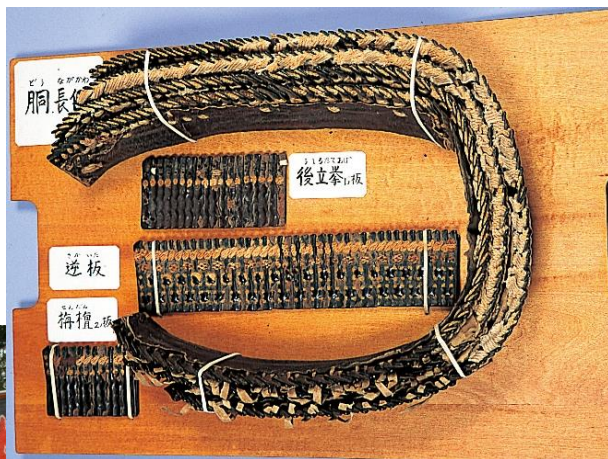


板絵著色三十六歌仙図

はいたてつき
佩立付

しろいとおどしつまとりよろい
白糸威褌取鎧 →

(残欠)



← 竜王三社神社を
練り歩く美和神
社の神輿



湯立の神事



美和神社 太々神楽

☆ 国立神社

美和神社を勧請した国造塩海宿禰（足尼）を祀っています。

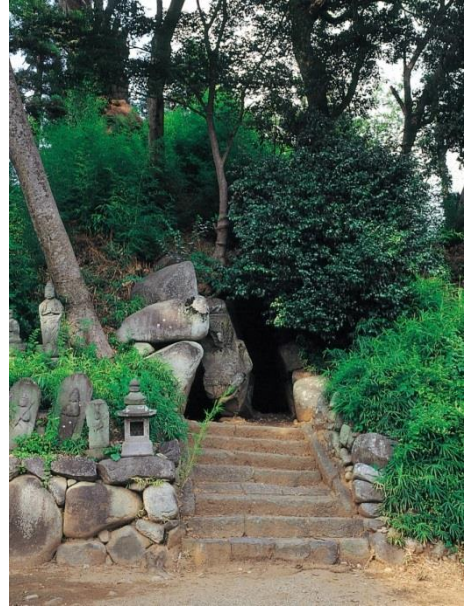


☆南照院と姥塚古墳

南照院は、永禄3年（1560）桶狭間の戦いで死んだ今川義元の弟、義弼が井之上郷に逃れ、義元の菩提を弔うために創建し、聖観音をまつたという話が伝わっています。

本堂裏にある姥塚古墳は、約1,400年前の古墳時代後期に造られた当時この地域を支配していた豪族のお墓です。古墳は直径約40m

の円墳で、周囲には溝が巡らされていました。遺体を埋葬した部屋は横穴式石室とって古墳の側面に入り口のあるものです。入り口をふさぐ石を開くと、新たな遺体を運び込むことができます。この行為を追葬と呼びます。追葬可能なことが、横穴式石室の特徴です。石室の大きさは現状で長さ17.54m、高さ3.6mで県内の横穴式石室の中では最も大きなものです。



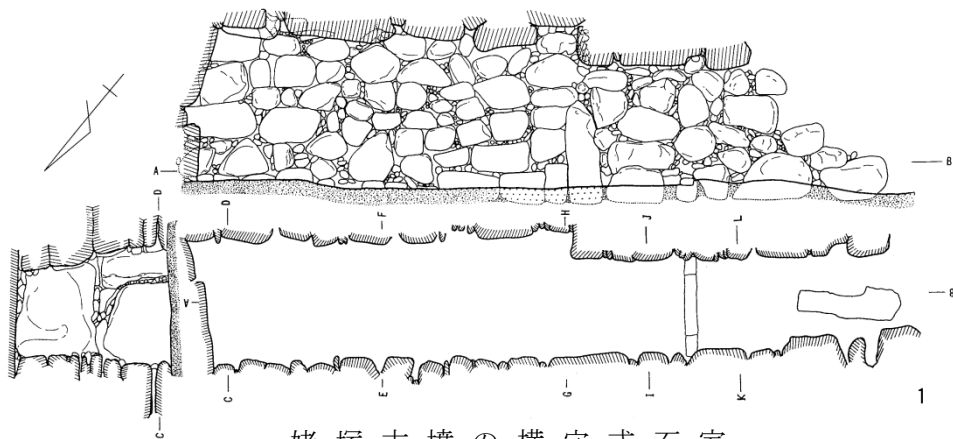
・姥塚にまつわる伝説

- ① むかし、右左口の山に谷間の百合姫という怪力無双の女が住んでいた。そして後の世にこの遺跡を残そうとして大石を集め、仲哀天皇の時代に538人を督励してこの塚を建造したという。
- ② むかし右左口の山奥に住んでいた山姥がこ

の塚を自分の住処にしようとして、大きな石を運んできて、八分通り出来上がり、中に大石を入れようとして入り口まで持ってきたときに夜が明けて鶏が鳴いてしまった。そこで山姥は仕方なく急いで山に帰ってしまった。その大石が今も入り口に横たわっている石である。その大石には指の跡が今も残っているという。

③ 右左口の山姥と井之上の怪力無双の男が力比べをして塚の造りっこをし、山姥が夜明けまでに塚を造りきれずに山に帰ってしまい、それで窟の入り口が二つに分かれて大石が立っているのだという。

④ 聖徳太子が黒駒の牧から馬を召されてここまで来た時、愛馬が病気になり鞍を外して石にかけ手当をしたが死んでしまった。そこで太子は塚を造って葬り、その供養として観音像を彫刻し、安置されたという。そのためこの塚を「御馬塚（オンバヅカ）」と伝えている。また、鞍をかけた石は今も鞍掛石として残っている。



姥塚古墳の横穴式石室

☆ 国衙のはなし

笛吹市御坂町には「国衙（こくが）」と呼ばれる地域（大字）があります。「国衙」とは平安時代後半の10～12世紀に国ごとの役所が置かれた場所です。この役所は8・9世紀には「国庁」と呼ばれていました。

国庁の所在地として形成された国の中心地が「国府」です。笛吹市には春日居町に「国府（こう）」と呼ばれる地域があり、古代の役所の倉と考えられる建物跡が発掘されています。そのため古代甲斐国の役所は奈良時代に春日居町国府にあったものが、平安時代中頃以降御坂町に移転したものと考えられています。

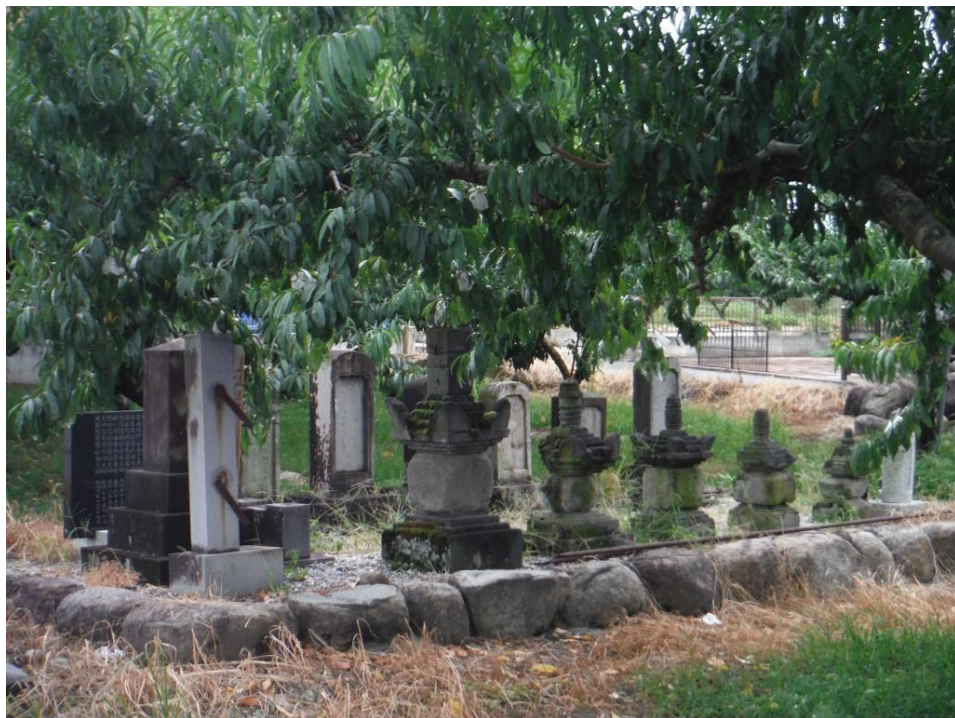


国衙跡の碑

☆ 宝篋印塔群

成田熊野神社東側の畑の中に大小5つの宝篋印塔をはじめとした石塔群があります。この石塔群は武田家の旧臣である埴原氏の墓地です。埴原氏ははじめは佐竹氏を称していましたが、武田信玄に仕えて信州埴原での合戦で功績があったため埴原の姓を賜りました。武田家が滅亡

した後は徳川家に仕えますが、小牧・長久手の合戦で当主が戦死したのちは浪人となりました。



☆ 熊野神社

熊野神社は熊野三山（熊野本宮大社・熊野速玉大社・熊野那智大社）の祭神を勧請した神社のことです。熊野詣の盛行や有力者による荘園の寄進、熊野先達の活動により全国に熊野信仰が広まったことにより熊野三山の祭神を勧請した神社が全国に成立しました。

『甲斐国誌』には山梨県内で64の熊野神社が記載されています。笛吹市八代町の熊野神社は紀伊国熊野神社領八代荘に勧請したもので（南北八代熊野神社）、甲斐国内の熊野神社の中でも中心的な存在でした。この南北八代熊野神

社は市川道（八代ルート）と若彦路の近くに位置しています。今回の御坂編でも成田の熊野神社を訪れますが、その先には石和町上平井・一宮町坪井にも熊野神社があり、市川道（八代ルート）に沿って分布しています。このことから市川道（八代ルート）が人や物資を運ぶとともに信仰の道としても重要であったことが窺われます。



成田熊野神社



上平井熊野神社

☆シワブキ婆さんのはなし

むかし、成田不動尊の山門のあたりに小商店があり、「ぬい」という美貌の娘がいた。その美貌のため侍に妾奉公に誘われたが、すでに恋仲であった大工の吾一という若者がおり、二人は困って夜逃げの約束をした。ところがその夜、ぬいのたった一人の母が労咳のため血を吐いて苦しむ、恋人との約束は果たされなかった。ぬいはこの恐ろしい労咳を何とかして無くすことのできないものかと思ひ悩み、「われ亡き後は我が墓に願いをかけよ。いかなるシワブキ（咳き）も治めん」と言い残して死んだとのことである。それ以来、咳きを治すために願いをかけ、願いがかなえば鳥居、腹掛けやのぼりを納め、ゴマの実を供える信仰が続いてきたそうです。



☆ 九品寺

時宗の他阿真教上人によって開創され「蓮華院」と称しましたが、永禄6年（1563）に焼失し、慶長18年（1613）に浄土宗として再興・再建され、現在の寺号に改めました。

本尊は阿弥陀如来と両脇侍の三尊です。阿弥陀像は鎌倉時代以降多く造られた三尺阿弥陀立像の系譜を引くもので、全体に量感豊かで衣文の彫りが深く、鎌倉時代前期～中期の制作と考えられています。



九品寺本堂



阿弥陀如来立像
及び両脇侍

☆ 世音寺

世音寺は明徳元年（1390）に開山した臨済宗の寺院で、本尊は千手観音です。門前の碑は柳沢淇園の揮毫により「諸悪莫作、衆善奉行、自浄其意、是諸仏教」と刻まれています。

淇園は、柳沢里恭の号です。里恭は、甲府藩主柳沢吉保の家老柳沢権太夫保格の二男で、兄の権太夫保誠の死後、その遺跡を継ぎ権太夫里恭と名乗りました。文学、芸術、医学など多芸に通じ、特に文人画の先駆者として有名です。



世音寺山門



柳沢淇園の碑

☆ 日当神社

日当神社は、国衙の北側に位置し、国衙に派遣されてきた役人が朝日を拝礼した神社とされています。現在の本殿と拝殿は延享年間（1744～1747）に建てられました。このうち拝殿は芝居などを上演する拝殿舞台です。拝殿の正面は両端以外に柱がなく、前半分は開放的な舞台であり、後半分は中央間の両脇に楽屋と太夫席が設けられました。また、拝殿前面には花道架設のためのほぞ穴が残っています。かつては農村歌舞伎などの地芝居が盛んに上演されたことが偲べれます。



ボクたち（狛犬）は今回のコースでどこにいたかな？

①



②



③



④



※答えは裏表紙にあります。
左右の写真は一对です。

馬頭観音(成田)

むかしは大きな
お祭りが催されて
いたそうです。



※表紙裏の答え

世音寺西の六地藏石幢の基部

※17ページの答え

- ① 国立神社
- ② 日当神社
- ③ 美和神社
- ④ 成田熊野神社



てくてく 古道を歩こう
市川道～御坂編～

笛吹市教育委員会
文化財課

TEL 055-261-3342

市川道(御坂地区) てくてくマップ



市川道は、五本辻に道標があり、オレンジ色の道筋を通りますが、この道はおみゆきさんで神輿が通った「御幸道」とも重なります。
今回は点線のルートを散策しますが、約4.4kmの道のりです。



☆「市川道」の推定ルートは、『山梨県歴史の道調査報告許第15集市川道』を参考にしています。